

-5, 4
刷紙6

令和 4 年度

付

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1191300035		
法人名	医療法人のぞみ会		
事業所名	グループホームきぼう		
所在地	埼玉県北足立郡伊奈町小室3170		
自己評価作成日	令和4年12月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和5年2月21日		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていきたいことをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

どんなときにも安心
隣接したのぞみ病院が24時間365日医療のバックアップします。
今できる事をこれからも
長年リハビリテーション病院として培ってきたノウハウを活かし、入居者様に応じた、運動機能や精神活動などにおける維持・向上を目指したりハビリを毎日実施していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- ・病院併設のメリットを活かし、医療従事者やリハビリ職員との連携のもと、「ひろびろとした住まい、どんな時も安心、「今」できることを、これからも」の理念を職員皆で共有し、利用者がその人らしく自立した生活が続けられるよう支援が行われている。
- ・運営推進会議は、町役場担当職員、地域包括支援センター、地域住民代表、病院関係者等の参加のもと定期的に開催されていたが、コロナ禍により集合しての開催が困難であり、事業所の活動状況報告書を参加メンバーに配布し、事業所の取り組みについて理解を得られている。
- ・目標達成計画については、法人合同の訓練のほか事業所独自の訓練が行われ、消火栓や消火器の使用方法、避難場所や避難経路の確認、備蓄の整備等災害時の協力体制が構築されていることから、目標が達成されている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事務所内に掲示している。	病院併設のメリットを活かし、医療従事者やリハビリ職員との連携のもと、「ひろびろとした住まい、どんな時も安心、「今」できることを、これからも」の理念を職員皆で共有し、利用者がその人らしく自立した生活が続けられるよう支援が行われている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ感染予防の為、地域との交流を中止している。	以前はボランティアの受け入れや職場体験の協力など交流の機会を持たれていたが、コロナ禍により現在は受け入れを中止されている。建物の構造上気軽に地域交流のできる環境ではないため、今後は役場にパンフレットを置くなど、事業所の存在を知っていただく取り組みを検討されている。	コロナ禍により地域との付き合いができるない状況が続いております。利用者が地域と繋がりながら暮らして行くことができるよう、外部との接点を多く持たれる取り組みに期待します。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーに地域代表者を組み込んでいるが、直接的な地域との交流はない		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナ感染予防の為、運営推進会議は中止している。活動報告を2か月に1回の頻度で郵送させて頂いている。	町役場担当職員、地域包括支援センター、地域住民代表、病院関係者等の参加のもと定期的に開催されていたが、コロナ禍により集合しての開催が困難となり、現在は事業所の活動状況報告書を配布することで事業所の取り組み状況を理解いただいている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに町役場福祉課職員及び、地域包括支援センター職員の方に参加をお願いしている。	行政とはメールや手紙で連携を図るほか、活動報告書で事業所の実情を伝え、運営指導ではケアプラン内容やBCPの整備についてアドバイスをいただいている。また、他市町村の利用者受け入れ時には、都度それぞれの市町村の担当者と協議の上進められている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを作成。研修を実施している。その他、身体拘束の禁止について入居契約書及び重要事項説明書に明記している。	2ヵ月毎に「身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」が開催され、指針の読み合わせや身体拘束に関するチェック表を活用して職員の理解を深められている。内部研修では、何が拘束に当るのか話し合い、身体拘束をしないケアについて共有されている。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を実施。自分や周りの介護について振り返りを行い、職員一同で虐待の防止に努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が参加した研修内容を職員に報告し情報を共有する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な点が残らないように、話し合いや十分な説明を行う事で、理解、納得していただけるように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や料金支払い時等で十分に時間をとりお話を聞くようにしている	家族には面会時に利用者の近況を説明し、意見や要望を聞くよう努められている。家族からの「外出させて欲しい」、利用者からの「美味しいものが食べたい」「お酒が飲みたい」などの要望には可能な限り対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を大切にし運営に反映させるよう努力している	管理者が業務多忙なため意見が言いにくい状況があり、メモで意見を出してもらうなど工夫されている。雑談の中でも積極的に意見や提案を聞き取られるほか、ミーティングでは併設病院の医師やリハビリ職員からの意見も聞き取り反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を提供する事が出来るように努力しているが、職員欠員時の充足に手間取る事もあり、負担を強いることがある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施し、勉強する機会を設けている。希望があれば外部研修の機会も確保できるようにする		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業との交流はない。併設病院及び通所リハビリテーションの職員と交流がもてるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の不安や要望を十分に聞かせて頂き、安心してサービスを利用していただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望をよく聞かせて頂き、不安を解消し安心してサービスを利用していただけるよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設では対応が困難な場合が発生した場合には、ご本人様やご家族様の理解を得た上で他のサービスを利用する事が出来るよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は一緒にやって頂くように声をかけ、ご本人様と職員が共に生活を支えるように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限りご家族にも介入して頂き、共にご本人様を支える関係を築くようしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	平日の午前、顔なじみの併設病院のスタッフがほぼ毎日顔を見せに立ち寄ってくれている。外出や外泊を推奨しているが、現在コロナ感染予防の為、中止となっている	コロナ禍で馴染みの人や場との関係を継続する事が難しい中、友人と電話で会話する方がおられたり、スマートフォンで通信販売の健康食品を取り寄せるなど、これまで大切にしてきたことが続けられるよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解したうえで、利用者同士が関わり、支えあえる関係がもてるよう支援している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご本人様やご家族様が立ち寄りやすい場所、電話しやすい場所でいられるように関係を築けるよう努めている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望や意向の理解に努めている	意思疎通が困難な方は、表情や手を握った時の反応などから思いや意向を把握し、本人本位の支援に努められている。また、「言動ノート」を職員間で共有し、夜中に歌を歌うような行動が出現した事例では、多職種での話し合いのもと、行動の意味を探る検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、ご本人様から日々のコミュニケーションのなかから情報を収集し、そのうえでご家族様からも情報を收取している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様、理学療法士、介護職員等が協力し現在の能力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い暮らしの為、必要な関係者と話し合い、意見を反映した介護計画の作成を心がけている	居室担当者からの意見を基にモニタリングを行い、病院併設の事業所であることから、リハビリ職員や医療関係者との連携に重きを置き、身体機能の維持や健康管理を大切に考えられたケアプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い、常に職員間で情報を共有し、実践の見直しや計画の見直しに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月～金曜日の午前中にご本人様の状態に応じたりハビリテーションを理学療法士とともに行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で地域資源の利用を活用しているが、現在コロナ感染予防対策の為、中止している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の院長による外来受診を月に1回うけている。また、緊急時には24時間365日併設病院のバックアップがある	病院併設であることから、24時間365日何時でも相談することができる体制が整備され、状態変化時には医師、看護師からの指示やアドバイスのもと迅速に対応することができ、利用者、家族の安心に繋がられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の心身の状態や情報を報告し共有している。利用者様が適切に受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院と常に連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの重度化への対応方針を説明し同意をもらっている。必要な段階で家族、医師、看護師等と十分な話し合いを行い、チームでの支援に取り組むことになっている	重度化や終末期には、本人、家族の意向のもと、併設する病院の医師や看護師との話し合いを重ね、最適と思われる終末期の支援が行われている。医療行為が必要となった場合は入院に繋げることが多いが、入院後も職員がオムツや洗濯物を届ける機会に面会し、最後までの関わりを大切にされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	定期的に研修を実施。また、併設病院と連携を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画により、避難訓練や防災講習を定期的に行い、利用者様が安全に避難できる方法を確認するようにしている	年2回訓練が行われ、1回は法人合同、もう1回は事業所独自の訓練が実施され、消火栓や消火器の使用方法、避難場所や避難経路の確認、備蓄の整備等、災害時の協力体制が構築されている。今後は災害別マニュアルの整備や夜間想定の訓練を検討されている。	病院との協力体制も整備され、充分な対策が取られています。いつどのような状況でも利用者が安全に避難することができるよう、災害別マニュアルの整備や夜間を想定した訓練などの取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修を行い、人格の尊重を図るよう声掛け等の対応を行っている	カーテンを閉めるなどプライバシーへの配慮や自尊心を傷つけない言葉掛けには十分な注意が払われている。重度化してもトイレで排泄したいとの思いや寝たきりでも食堂で皆と一緒に食事をしたいなどの気持ちを汲み取り、一人ひとりを尊重した支援に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定に結びつけてい。表せない利用者は表情やしぐさなどから思いをくみ取り、自己決定に近づけるよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく利用者様の生活のペースを大切にし、希望にそろそろ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方はお化粧等、見出しなみを整えられるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常は病院の栄養士が作成したメニューを提供し職員が準備や片付けを行っている。季節の行事の際に季節の食材やメニューを取り入れ入居者様と共に作成する企画を行っている	栄養士による献立のもと、栄養バランスの取れた食事が提供され、季節イベントの「秋の味覚を楽しむ会」では焼き芋や芋煮など楽しめている。理学療法士から自助具の提案や食事時の適切な姿勢保持などアドバイスがあり、安全に美味しく食べることができるよう支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録している。また、その人の状態や好みに合わせた食事の形態に変更している。必要に応じて栄養士や言語聴覚士等と相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔支援を行っている。定期的に訪問歯科の受診を受け、口腔内の状態を確認している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用を減らす為、排泄頻度等を確認し、排泄習慣の把握に努めている。安易にオムツを使用しないように支援している	重度化して寝たきりであっても、訴え時には職員2人対応でトイレに座っていただき、トイレでの排泄を基本として支援が行われている。理学療法士から車椅子のセッティングや手すりの持ち方、座るときの負担軽減の方法などアドバイスを受け、排泄の自立に向けた支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	理学療法士による毎日の運動や、食物繊維の多く含まれている食材の使用。場合によっては医師や看護に報告し、内服薬の服薬等、便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴機会を確保している。また希望があれば対応する事も可能	機械浴の設置があり、重度化しても安心して入浴ができる環境が整備され、体調不良時は病院の看護師に相談をして、医師の指示のもと入浴を提供されている。心地良い音楽を流して気持ち良く入浴していただいたら、好みのシャンプーや石鹼希望には適宜対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室で自由に休息をとって頂き、夜間は居室の室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い、安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の確認を行い、服薬している目的を把握。副作用含め、理解するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を出来る方は職員と一緒にやって頂く。その他、午後のアクティビティ等を実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染予防の為、屋外での活動は制限している。施設周辺の散策を実施するにとどまっている	コロナ禍で外出ができない状況が続いているが、病院の敷地内を散策して猫を見て和まるなど、気分転換が図れるような外出支援が行われている。今後は状況をみながら家族の協力も含めて希望の外出ができるよう検討されている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る人は、小学館限り、自分で管理されている。金銭管理が不十分になっている方で、手持ちがないと不安に感じる場合は家族と相談のうえで少額の現金をもって頂くようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等、希望があれば使用できるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地よく過ごす事が出来るように、空調等を使用し、季節の装飾等を飾り等も行っている	広々としたリビングには利用者の作品や行事の写真、お雛様や桜のモチーフのクラフト作品など、季節が感じられる飾り付けを工夫されている。理学療法士からどういう動きをすれば可動域が広がるのかなど助言を受け、リハビリを兼ねたレクリエーションが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳のスペースを設け、自由に過ごして頂ける場がある。テーブル席は身体的な事を含め、なるべくその人の居心地よく過ごしていただけるよう配置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンス等、なじみの物を置くことで居心地よく過ごせるように工夫している	旅の思い出の品やこだわりの大画面のテレビなど持ち込んでいただき、それぞれの居心地の良さに配慮がなされている。また、冷蔵庫にはお菓子や飲み物など差し入れの物を入れたり、携帯電話で家族と好きな時に会話を楽しむなどの制限を設げず自由に過ごしていただいている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り安全に過ごせるように工夫している		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名: グループホーム きぼう

作成日: 令和 5 年 4 月 5 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かつたり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間の災害発生時に対するスタッフの不安がある	緊急時の対応を全スタッフが把握し、冷静に対応する事が出来る	<ul style="list-style-type: none">・災害時のマニュアルを作成・夜間、スタッフが少ない状況を想定した避難訓練を実施する・併設病院と非常時においての対応方法を共に確認していく	12ヶ月
2	2	コロナの為、外部との接点が無くなってしまっている	地域でのイベントなどに参加し、地域社会との交流の場を作っていく	<ul style="list-style-type: none">・感染対策を行いつつ、出来る範囲で地域との交流の場に参加出来るようになる・ボランティア団体など受け入れを様子を見つつ再開していく	12ヶ月
3	19	コロナの為、家族との交流の場が減っている	コロナ感染を徹底して行い、安心してご家族様がご利用者様と接する事が出来る	<ul style="list-style-type: none">・併設病院の感染対策委員と協力し、面会方法の見直しを検討する・ご家族様と共にご利用者様が外出出来るよう検討する	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。